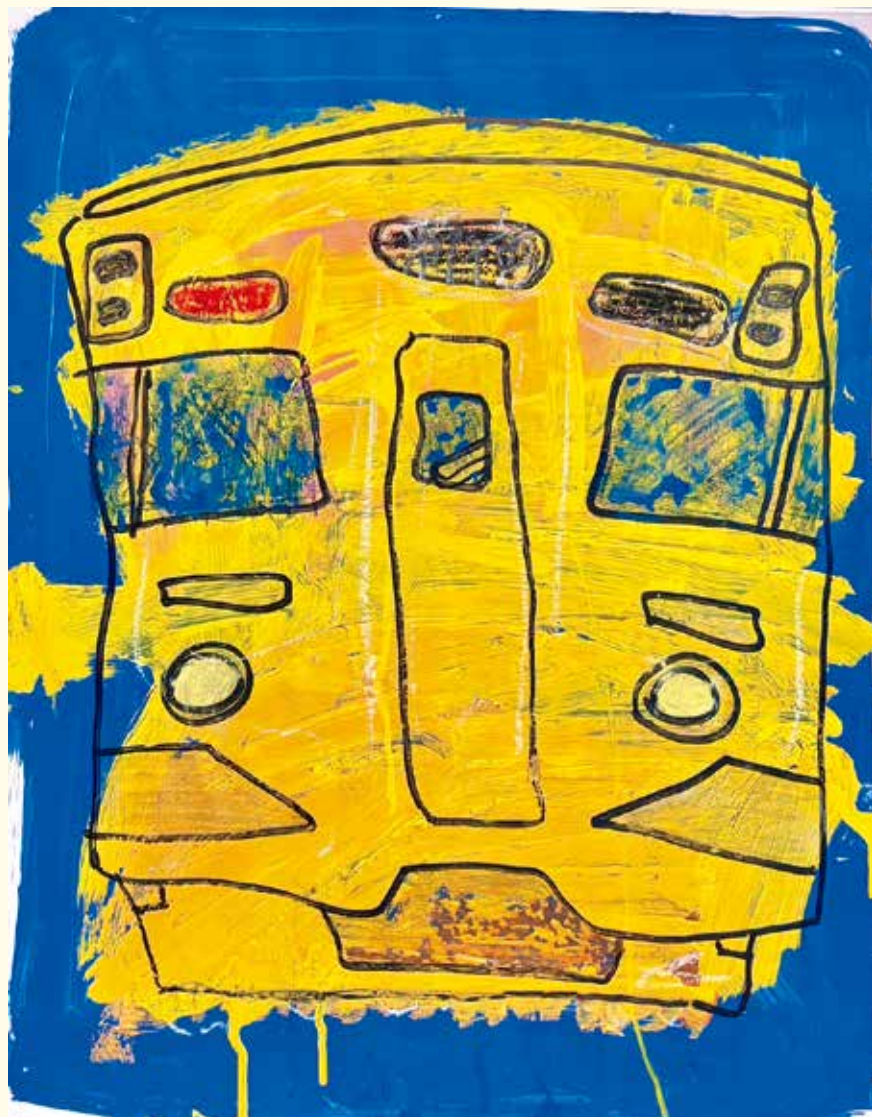


穂 穂

おほしたつる君がちからにひつじぼの
いねもゆたかにうちなびきつ
佐藤仁之助先生歌書



神保光希『西武新宿線』

この黄色い電車は西武新宿線。作者の神保光希君は小、中学生の頃から造形教室（創作工房）アトリエ・オクトに来る度、好んで牛乳パックや工作用紙で立体物の電車を、車輪はペットボトルのキャップ等を使用してそれはそれは巧みに作っていた。高校入学当時から描画にも段々興味を持ち、現在に至るがモチーフは相変わらず鉄道関係。件のこの絵、当初は本人の希望でドクターイエローの写真素材を躍起に探していたが神保君的に不服の水準ばかりで、已む無く上記の路線から納得のいく画像資料をチョイスしてからは「ほおらおつきな電車描こうね!」と一気呵成に仕上げた。

Index

- 法人令和7年度事業計画「八幡学園100周年に向かい、未来を切り開く出発点」
- 八幡学園令和7年度事業計画「子どもの気持ちに基づいた支援を目指して（その②）」
- センター令和7年度事業計画「地域に必要とされるセンターを目指して」
- ひまわり令和7年度事業計画「一人ひとりの放課後に、溢れる笑顔を」
- 八幡学園 園長交代挨拶
- 【特集】「山下清とその仲間たちの作品展」を振り返る

八幡学園 100 周年に向かい、未来を切り開く出発点

社会福祉法人春濤会 理事長 久保寺玲

1. 第3期中期経営計画の策定

当法人では、令和元年度より3年を一区切りとして、中期経営計画を策定しています。第3期中期経営計画は、令和7年度～9年度が該当期間です。第3期は、法人の本体施設『八幡学園』が令和10年度に創立100周年をえることを契機に、法人理念を柱に未来を切り開く活動を推進していきます。第1期と2期に取り組んできた課題に対する成果を踏まえ、法人の更なる発展と歴史の継承のための節目の期間としていきます。

2. 令和7年度の取り組み課題

①理念の浸透と基本方針の着実な実践

創設者の掲げた学園標語『踏むな、育てよ、水そげ』と遺訓「園児を友とする心」は、法人職員が常に立ち返るべき原点です。標語と遺訓に込められた精神に基づく法人理念及び基本方針と求める職員像を、職員が共有すべき依り所として浸透させ、実践に繋げていきます

②重点課題と取り組み

以下のキーワードで示される課題に、法人職員一丸となり取り組んでいきます。

- * 100周年プロジェクト始動
- * 信頼を高める
- * 地域とつながる
- * 未来をつくる人を育てる
- * 道を切り開く

③財務改善

以下の項目毎、経営努力を行い経営基盤の安定化を図り、資金の積立や運用を行います。

- ・ 留保資金による運営基盤安定
- ・ 単年度収支の安定
- ・ 運営活性化のための予算配分

④人材確保、育成、定着

1期、2期の実践と成果を踏まえ、人事広報担当者配置を継続して、本部として積極的に取り組んでいきます。次世代のリーダー育成が重要ポイントです。

⑤経営層の交代

令和7年度より『八幡学園』園長が交代となります。事務局長は非正規となり前年度に就任した次期事務局長候補者への引継ぎを継続します。総務部長退職に伴い、事務と総務の職務分掌を機能別に整理して業務を推進します。前園長は、退職後も法人の理事長職留任、令和7年6月以降次期任期も、理評会承認があれば重任予定です。

⑥危機管理対応

コロナ禍や昨今の自然災害の頻発を受け、福祉施設にも従来以上の危機管理対応が求められるようになりました。そのため、事業継続計画（災害・感染症）に基づき義務化となった各種の研修や訓練を怠りなく実施し、危機管理対応力を高めるようにします。



子どもの気持ちに基づいた支援を目指して（その②）

福祉型障害児入所施設八幡学園 園長 鷲巣徹也

令和7年度がスタートしてあっという間に2か月が経ちました。現在八幡学園では6歳から18歳までの子ども達46名が、4つの生活寮と1つの施設内ホームに分かれて暮らしています。昨年度は8名のお子さんが卒園し、それぞれ新たなステージへ送り出すことが出来ました。移行先は東京近県の市街地にあるグループホームが大半を占めており、成人入所施設中心（それも関東近県で見つけるのは至難の業）だった頃に比べると時代の移り変わりを実感させられます。一方、新たに5名のお子さんを迎え入れ、子ども達のパワーに毎日圧倒されながらもどうにかこうにか皆で元気に過ごしています。

私たちは、子ども達を施設の主人公として位置づけ、安らぎや心地良さを感じながら、一人ひとりの持つ力が活かされる暮らしの場を作りたいと考えています。そのためには、生活する集団をできるだけ少人数の子どもと職員で構成する必要があると考え、平成19年の園舎全面改築等を経ながら段階的に施設の小規模化を進めてきました。そして、今回その歩みをもう一步進めようと考え、これまで5つあった生活寮をひとつ減らし、今年度から4つの生活寮（男児寮3・女児寮1）とひとつの施設内ホームで運営していくことにしました。その上で、引き続き①自分の部屋があり、集団生活の煩わしさが軽減される②個人の気分やペースで行動できる③職員とより親密な関係を築きやすい④個人にとっての「安心／満足／快適」にフォーカスした柔軟な対応ができる暮らしの場づくりを推し進めていきたいと考えています。

令和7年度の施設運営の重点課題は以下の通りです。

○子どもの気持ちに基づいた支援の実施

子どもの生活や支援について考えるときには、子どもの話をよく聴き、子どもの様子をじっくり観察して子どもの気持ちを汲み取るようにします。そうして子どもの立場に立って考え、子どもと一緒に物事を決めていくようにします。

- ・子どもの意見を聴く取り組みを推進します。
- ・子どもの気持ちを汲み取る取り組みを推進します。

○施設生活および支援の向上

子どもの立場に立って施設の暮らしを問い直し、子どもの権利が守られる施設運営に努めます。伸び伸びと暮らしながらその子らしい成長を遂げられるよう、専門的な支援や多様な生活体験が得られるようにしていきます。

- ・委員会活動（権利擁護／虐待防止／性教育）を推進します。
- ・友達や地域の人達と接する機会が持てるようにしていきます。
- ・食の満足度を高める体制づくりに取り組みます。
- ・コンプライアンスの強化に取り組み、園児や保護者だけでなく職員や社会からも信頼される施設を目指します。

○人材の確保／育成／定着

施設全体で良質な支援を実践していくためには、法人理念や施設の基本方針を理解し、期待された役割を全うできる人材の育成が欠かせません。人材難の社会情勢のなか、施設の事業を維持継続するため人材の確保／育成／定着に向けた取り組みを推進します。



地域に必要とされるセンターを目指して

児童発達支援センター こども発達支援センターやわた 通所統括所長 徳江美由起

こども発達支援センターやわたは、この4月に開設から14年目を迎えました。この間、児童発達支援センターの様々な事業や取り組みを通して、多くの方にご支援をいただき、地域の皆様との繋がりも広がってきました。令和7年度は、この実績や繋がりを基に、より一層センター機能を強化し、地域の皆様から期待される役割を果たしていきたいと考えています。

児童発達支援センターは、令和6年4月に施行された改正児童福祉法において、地域の障害児支援の中核的役割を担う機関として位置づけられました。多様な障害や家庭環境等に困難さのある子ども等への適切な支援は勿論のこと、地域全体の障害児支援の質の底上げを図るという役割も求められています。その役割を担うためには、障害のある子どもやその家族等をサポートする支援力の向上と、地域の連携体制を構築していく必要があります。そこで、まずは職員の研修計画を見直し、より効果的効率的に育成を図るとともに、地域支援を担う専門職の確保に努めます。そして、地域の協議会や部会等に積極的に参画し、様々な関係者や機関と情報交換をしたり、地域課題への協働を通して、連携体制を構築していきます。

次に、センターの中心事業である児童発達支援「つくしんぼ教室」では、より質の高い専門的な支援の提供に努め、移行支援を通したインクルージョンの推進にも取り組んでいきます。また、発達に気になる子どもの健やかな成長発達のためには、早期介入だけでなく、家族へのサポートもとても重要なことだと考えています。そこで、新たな取り組みとして、親子通園や外来療育等の実施

を検討しています。利用される方それぞれの多様なニーズに柔軟に対応することで、子どもやその家族が安心して暮らせるように、サポートしていきたいと思っています。

地域生活のサポートという点では、その要でもある相談支援事業にも力を入れていきます。相談支援専門員の不足は、市川市の地域課題となっています。多様化複雑化するニーズに応えられるように相談支援専門員の人材確保や育成を図り、より多くのケースを受諾できるように努めます。更に、障害児等療育支援事業でも、障害の有無に関わらず、様々な相談をお受けしたり、気になるお子さんの支援をしている保育園や幼稚園等をサポートする活動にも取り組んでいきます。

また、地域貢献事業として行っているおもちゃ図書館は、今年度も5回開催します。多くの方楽しんでいただけるように、毎回様々なイベントを企画していきます。開催にあたっては、たくさんのボランティアさんのお力をお借りしたり、ポスター掲示等の広報にご協力いただいたりすることで、地域の皆様との繋がりも深めたいと思っています。

私たちは、これらの取り組みを通して、支援を必要とする子どもや家族が安心して暮らせる地域づくりを進めていきます。自分たちが出来ることを着実に積み重ねていき、障害の有無に関わらず、全ての子ども達が健やかに成長し、権利が守られ、幸福な生活が送れる社会の実現を目指していきたいと思っています。



一人ひとりの放課後に、溢れる笑顔を

放課後等デイサービスひまわり 副長 山縣苑子

桜の花びらが舞い散る中、いつものように子ども達の元気な笑い声がホールに響き渡り、ひまわりの新年度がスタートしました。入学した子、進級した子、お別れや新たな出会いを経験した子など、4月は子ども達にとって少なくはない緊張や戸惑いを感じる季節です。そんな中、ひまわりの扉を元気にくぐり、これまでと変わらないリラックスした表情の子ども達を迎え入れる時、「ひまわりはみんなの安心できる居場所になれているのかな」と、じんわりとした喜びを感じます。4月に新しく仲間入りしたお子さんも、「今日は〇〇をやりたい!」「△△さんと遊びたい」と、期待感をもって登所してくれるようになりました。今年度のひまわりも、子ども達のワクワクも不安な気持ちも受け止めながら、お子さんが安心できる第三の居場所を目指して、心機一転尽力して参ります。

ひまわりの“自慢”は、法人の広く整備された環境の中で子ども達が好きな遊びを選び、のびのびと遊べることだと自負しております。ホールでは、トランポリンやハンモックで思いきり身体を動かしたり、プラレールをホールいっぱいに並べてお友達と電車を走らせたりと、子ども達が好きな遊びをダイナミックに展開しています。中庭では自転車の練習や水遊び、芝生広場では大きな山作りや虫捕りにお花摘み…と、季節と共に遊びの内容も移り変わっていきます。子ども達が「やりたい!」と思う遊びを実現できることは、法人内の環境があってこそです。この恵まれた環境をフルに活用し、子ども達一人ひとりの余暇がより充実するよう、私達スタッフは学びを深め、工夫を凝らした支援を提供し続けていきたいと思っています。「明日も来たい!」と思ってもらえる、そんな居場所になることを志して、今年度も走り続けます。

令和7年度の重点課題と取り組みは以下の通りです。

地域から期待される役割を果たします

○権利擁護意識の向上や安全対策を強化していきます。

身体拘束適正化及び虐待防止委員会を通じた権利擁護意識の強化を行います。また、安全計画に基づいた訓練の実施、遊具や環境等の整備を適切に行いリスクマネジメントを徹底します。

○地域のニーズを把握するとともに、つながりを強化していきます。

昨年度に続き、障害児支援連絡会に幹事として参画し、関係機関との繋がりを強めると共に、地域の障害児支援の現状把握に努めます。事業所間連携に積極的に取り組み、支援者の顔やお互いの支援が見える関係づくりに努めます。

持続可能な支援体制の構築を目指します

○職員の能力開発に努めます

専門性向上のための取り組みを強化し、お子さん1人1人に適切で効果的な支援の提供に繋がめます。

○利用者の安定的な利用を目指します。

ニーズに応える支援の提供に努め、利用者の満足度を向上させます。

多様化複雑化するニーズに応えられるよう、ひまわりの在り方を検討していきます

○日中一時支援を開始します。

放課後等デイサービス事業を最優先した上で、日中一時支援を活用し、緊急的なニーズに対応していきます。

○地域ニーズに合わせた事業展開を検討していきます。

地域の実情を調査し、ニーズの把握に努めると共に、今後のひまわりの事業方針を検討していきます。



支えられ続けて 21 年

～園長退任ご挨拶～

本号が読者の皆様のお手元に届く頃、季節は梅雨が明け、連日真夏の暑さが盛りの頃合いでしょうか。園庭から、元気に遊び回る子ども達の声が聞こえてきます。毎日「ただいま！」と玄関から声をかけてくれる中学生達。楽しく学校に通えているのは何よりです。

さて、私は令和6年度末をもって長らく努めてまいりました『八幡学園』園長職を退任しました。これは法人の第2期中期経営計画（令和4～6年度）本部計画の重点課題として掲げた「経営層高齢化に伴う交代引継ぎ人事の円滑な遂行」方針に基づくものです。後任の第4代目園長は、鷺巣前支援部長です。皆様、何卒よろしくお引き立ての程、お願い申し上げます。

2代目の父、光久園長が84歳と高齢となり、私が後を継いだのが平成16年4月でした。爾来21年、顧みれば様々なことがありました。まずは、国と都補助による園舎全面建替。工期2年に渡る大事業で平成19年3月に無事、落成。その後、自主事業の幼児療育教室活動を経て空いた敷地を活用し、平成23年に現通所センター棟を建て、児童デイサービス事業を開始。翌年の平成24年に法改正による障害児施設体系の改編。その前年の東日本大震災は、幸い大きな被害を被ることはありませんでした。計画停電で学園敷地から見える崖地下の街並みから一斉に灯りが消える光景を思い出します。平成末から複合的要因が重なり収支が厳しくなり、学園分棟を建てる目的で確保してきた隣地を売却せざるを得なくなり、財務改善のためとは言え、苦渋の選択でした。その他、社会福祉法人経営改革、定員削減と小規模グループケア推進、人材確保と育成定着、虐待防止、権



前園長
久保寺 玲

利擁護、コロナ禍と感染症対策等々…。次から次に押し寄せる課題難題に、その都度、職員の支えでなんとか対応してまいり

ました。今更ながら、園長を名乗ってこられたのは、法人役員と評議員各位、法人理念の下で日々の勤務に邁進してくれた職員達、歴代の父母の会会長や役員の皆様などご家族、行政や関係各機関や通学校の教職員等の方々や、その他協力者、様々な分野の皆様方がお力添えをしてくれたお陰であると感謝する次第です。在任中、外回りの仕事では、千葉県知的障害者福祉協会や東京都社会福祉協議会知的発達障害部会で役職を拝命する時期もあり、学園の施設間交流の拡がりに多少の貢献はできたのではないかと感じています。

在職41年、その間学園を巣立った子ども達の顔を思い起こし子ども達一人ひとりが、学園生活を糧にその子らしく元気に暮らせていれば、これに勝る喜びはありません。初代、2代目が歩んできた障害児支援に特化した道を、私も継いでまいりましたが、少子高齢化が急速に進む時代の流れの中、学園も大きな岐路に立たされています。とは言え、『踏むな、育てよ、水そそげ』の学園標語、『学園職員が園児を友とする心』の創設者遺訓が、職員が常に立ち返るべき原点であることは変わりありません。21年間、ありがとうございました。園長は退任しましたが、今後も法人理事長として微力を尽くしてまいります。皆々様の一層のご支援とご厚情を賜れば幸いです。

就任にあたって ～園長就任のご挨拶～

このたび園長に就任しました鷲巣徹也です。
突然ですが八幡学園は令和 10 年に創立 100 周年を迎えます。その歴史と伝統、諸先輩方が注がれた情熱や残された足跡などを受け継ぎ、さらには発展させていかなければならないという重責に身の引き締まる思いです。そもそも「ネガティブ・優柔不断・八方美人」の三拍子揃った私に園長が務まるのだろうかという日々ではありますが、やると言ったからには後には引けません(ちなみに強みは「割に真面目」という所だと思っています)。失敗もたくさんするでしょうが、とにかく「為せば成る・・・」の精神で一生懸命取り組んでいきたいと思います。

振り返ると、私が八幡学園に入職したのが平成元年でしたので学園一筋 35 年ということになります。福祉の世界の右も左も分からないままこの仕事に就き、上司や先輩方そして何より子ども達と保護者の皆さんにご迷惑とご心配をおかけしながら何とか今日に至りました。自慢だった「茶髪のロン毛」もすっかり「ごま塩味の短髪」に様変わりし、気を抜くとほっぺたから髭がもじゃもじゃ生えてくる「おっさん」になってしまいました。



八幡学園
園長 鷲巣徹也

た。そんな私ではありますが、学園を子ども達が「ゆる～く」「なごやかに」過ごせる場所にしたい、一人ひとりが自分の持ち味を発揮して生き活きとしていられる場所にしたいと考えています。どうしたらそんな場所にしていけるのか、私たち職員は子ども達にとってどんな存在であるべきなのか、その一つの答えが「子どもの声に耳を傾ける」姿勢を職員が子ども達に示していくことです。私が入職した頃と比べると子どもの数は約半数に減りました。家庭サイズとはいかなくともできるだけ小さなグループで、お友達や職員と良い関係を持ちながら暮らし成長していける施設作りは道半ばです。諸先輩方の意思を受け継ぎ、次世代へと繋げていく役割を微力ながら果たしていきたいと思います。今後とも皆様のお力をお貸しいただけますと幸いです。

八幡学園と共に生きて ～退職のご挨拶～

この度、私は 42 年間勤めてきたこの法人を退職しました。

学園では、2 代目園長の次女として生まれ、幼少期は園児と共に家族のように生活をして育ちました。大学卒業後、保育園に 3 年間勤め、その後また児童指導員として学園に入職しました。

入職した頃の学園は、まだ障がいを持っているお子さんの義務教育も制定されていない時代でした。集団生活になじめず、家庭でも対応に窮していた自閉症を伴うお子さんがたくさん在園していました。自閉症という概念も定着しておらず、その対応に試行錯誤しておりました。私も、当時主任を務めておられた関川先生はじめ諸先輩に教わりながら、失敗を繰り返しながら夢中になってお子さんと過ごしたことが思い出されます。

その後も私は、未就学や高等部卒業後のお子さんに対し、本園独自の療育教室を展開したり、短期入所や日中一時支援事業、肢体不自由なお子さんの受け入れをしたりと、「児童福祉」という視点で運営してきた学園と共に充実した日々を送っ



前総務部長
外山京子

てこられたと思います。

今の時代、福祉はサービスという言葉が使われていますが、私はこれに違和感を持っています。「児童福祉」はもてなすとか応じるとかではない、学園の標語である「踏むな、育てよ、水そそげ」にあるように、お子さんの成長を促し、支援していくことが本来の役割ではないかと思います。私はこれからも、本法人が理念に基づき、末永く福祉の心を忘れずに発展していくと信じています。

最後に、多くの保護者の皆様、関係各所の方々、何よりも職員の方々に支えられて勤めさせていただいたことに深く感謝し、退職の挨拶とさせていただきます。

八幡学園と歩んだ 63 年

元八幡学園山下清展事業委員会代表 八幡学園理事 松岡 一衛



昭和 31 年 (1956)
東京大丸デパートで
「山下清作品展」が開
かれ、連日多くの観客

が訪れた、というラジオニュースが流れました。障害がありながらも特異な才能を発揮。その作品はゴッホの点描画に似ていることから「日本のゴッホ」とも言われたそうです。東京での作品展が終わると全国の主要都市を巡回するといっています。

静岡県清水市（現、静岡市清水区）に住む私たちが山下清の作品展を見るためには旅費と長い時間を使って行かなければなりません。東海道線で片道 4 時間、往復で 8 時間。1 日かかってしまいます。

昭和 38 年 (1963) 私は 26 歳。市内の会社に勤めていました。清水で山下清作品展を開催すれば、市民のみんなが喜んでくれるのではないかと思います。八幡学園に電話をして、作品借用のために学園を訪問し、久保寺光久園長と面会。久保寺園長は私の願いを聞き入れてくれました。これが八幡学園との関係の始まりです。

宣伝はどのようにすれば。本当に人は来てくれるのか。採算は取れるのか。心配ごとを抱えながら仲間（青年団連絡協議会）の力を借りて清水市の青少年会館で開催することができました。

作品展には山下清さんも同行してくれました。サイン会や施設の訪問など行いました。



小さな町での開会式
中央・山下清 右・松岡 昭和 39 年 (1964)

初日は土曜日、開場とともに多くの入場者が来るものと思っていましたが、予想に反して大人が数人。しかし、午後になると親子連れが続々と入場。会場は多くの鑑賞者で賑わいました。「身近なところで山下清の作品が見られてよかった。ありがとう」感想文ノートに書かれた言葉です。子供の入場料は 30 円。受付で硬貨 3 枚を受け取ると暖かくまだ手のぬくもりが残っています。清水市での評判が近隣の町にまで広がり、開催依頼が何か所も入りました。



山下清が描く絵を熱心に見る子供たち
清水市三保第一小学校 昭和 38 年 (1963)

久保寺園長との約束は清水市での開催のみです。久保寺園長の許可を得て作品の借用期間を延長していただきました。運営は仲間たちが交代で行ってきましたが開催計画が 3 か月も先までになるといつまでも仲間たちの支援を受けているわけにはいきません。会場係りに必要な人手は開催会場から出してもらうことにしました。

私は会社を退職し山下清展に専念しました。「山下清作品展」は県外の小都市にまで及びました。開催して 1 年が過ぎたころ山下清作品展にもの足りなさを感じるようになりました。鑑賞者は貼り絵の細かさに驚き、色彩を褒めてくれます。山下清には軽度の知的障害があり八幡学園に入園してきました。障害がありながらも人々を驚嘆させる作品を生み出す能力はどのようにして引き出されたのか。その概要を最初からしつかり構成していれば山下清作品展の見方はもっと変わっていたの

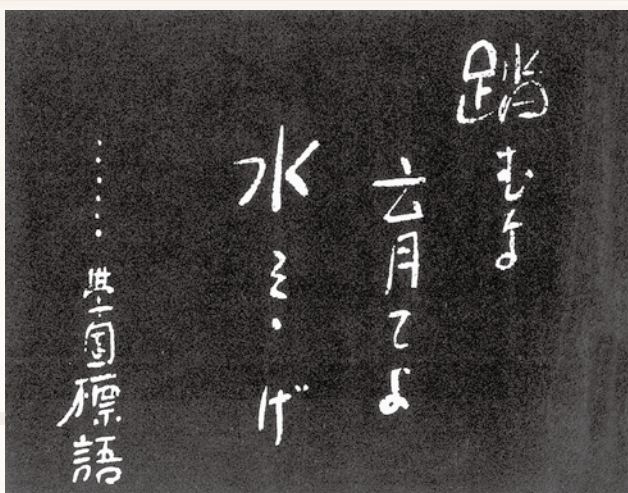
ではないか。

小さな町の子供たちに山下清の絵を見せてあげよう。そのことに夢中になり、作品だけを展示して満足していたことに自己反省をしました。

八幡学園の園児たちへの指導方法を調べるため再度、八幡学園を訪ねました。学園誌の中に八幡学園創設の動機について書かれているページがあります。創設者・久保寺保久氏は「障害を持った子供たちには、子供たちにあった環境の中で育てていくことが大切です」と述べています。また「押しつけの指導をしてはいけません。その子の能力にあった指導で少しずつ伸ばしていきます」。学園標語「踏むな育てよ水そそげ」とありました。

昭和3年（1928）福祉という言葉もない時代、障害を持った子供たちのための施設をつくるため、生け花教室、裁縫教室、英語教室など開き近隣住民への理解を求めました。また「園長夫妻は入園してくる子供たちを父母として我が子のように迎えた」とも書かれています。

作品展を重ねるごとに少しずつ新しい表現（解説）を取り入れていきました。感想文を読むと反応が読み取れます。「才能を開花させた八幡学園の指導方針、子供たちの心を大切に育てる姿勢から作品が生まれたことを知りました」「指導の仕方によってはこうも成長するものですね」感想文に書かれる言葉も変わりました。



平成元年8月（1989）。驚くニュースが飛び込んできました。

「山下清作品展」が長野県諏訪市美術館で開催されているというニュースです。山下清の全作品は八幡学園所有で「山下清展企画室」（当時の名称）（代表・松岡一衛）が管理しています。どんな作品か。早速、諏訪市美術館を訪ね館長の説明を聞きに行きました。作品は山下清作品愛好家が全国から集めたものを展示している、本物と信じている、という回答です。私は山下清の作品について本物と偽物の違いを説明しました。館長は納得したのか定かではありませんが早々と開催中止を決めました。作品提供者側は出てきませんでした。

数か月後、長野県富士見高原で「山下清原画展」というタイトルで開催されていました。久保寺光久園長と共に現地を訪ね中止を訴えました。園長が撮影した証拠写真のフィルムは取り上げられ、日にさらされてしまい、横暴な行為に恐怖を感じました。

平成7年（1995）長野県松本市ジャスコ南松本店で「山下清原画展」が開催され、著作権者の山下辰造氏（山下清実弟）は地方裁判所松本支部に証拠保全の手続きをしました。証拠保全とは展示されている作品を全て写真撮影し裁判所に提出すること。今後は、裁判所に於いて真贋論争になっていきます。

平成10年（1998）兵庫県加古川市総合文化センターで開催された「山下清原画展」に久保寺光久園長と共に開催中止の申し入れに行きましたが入場を拒否されました。原画展主催者は、松岡と久保寺園長の二人は、「嫌がらせに来た」と言っています。この日の様子は産経新聞に大きく取り上げられています。今も贋作による山下清原画展が開かれていると思うと悲しくなります。

真贋問題も解決しないまま、平成9年（1997）12月。山下辰造氏を原告とする山下清作品所有権確認を求める書類が山下側弁護士より久保寺光久園長に届きました。「八幡学園が所有している山下清の作品は全て山下家のものである」、と全作品の返却を主張しているものです。学園側も弁護士を立て、「貼絵の材料は八幡学園が与えたこと、昭和9年入園から31年退園までの22年間は八幡学園が全て面倒を見たこと」など、を上げ反論しました。

1 年余の協議を重ね平成 11 年（1999）1 月、和解となります。山下清の全作品を 2 分の 1 に分けて所有することに決まりました。

これからは八幡学園単独所有になった 2 分の 1 の作品で「山下清作品展」を開催していかなければなりません。もう一度原点に戻り八幡学園の資料を読みなおしました。

早稲田大学心理学教室・戸川行男助教が大隈講堂で発表した「特異児童作品展」のところでページをめくる手が止まりました。

私には遠く及ばない企画と思い今回は素通りさせてしまいましたが、この「特異児童作品展」を私のライフワークとして再現してみようと思いつきました。

久保寺光久園長に構想を話しました。「戸川先生の研究は、八幡学園の原点を発表したものです。再現できるならば協力しましょう。」と賛同していただきました。

久保寺光久園長は昭和 10 年代の園児の作品を抱えきれないほど何回かに分けて持ってきてくれました。その数は 400 点余りありました。

園児の作品は私の自宅に送り、修復作業にとりかかりました。60 数年前の作品は埃の除去、二つに折られた作品についた線の修復、クレパスがこすれている個所の修復など大変な作業です。作品の修復には当時使っていたクレパスが八幡学園に保存されていたので色の修復に困ることはありません。修復は素人には出来ませんので美大出の知人に依頼しました。戸川行男助教が特に名を上げた石川謙二、野田重博、沼祐一の作品を中心に他の園児の作品を含め 120 点を額装しました。

解説パネルの説明は戸川行男助教の文献から引用させていただきました。また、八幡学園創設当時の写真、園児の写真は八幡学園主事渡辺実先生が撮影されたものを園長の許可を得て使用しました。60 数年前の園児の作品を始め、写真が大切に保存されていることに驚きました。

和解交渉中の約 2 年の準備を掛け平成 14 年（2002）10 月、仲間たちの作品展の準備は全て整いました。

作品展のタイトルは「特異児童作品展」から「山下清とその仲間たちの作品展」に替えました。戸川行男助教の研究成果を再現できる喜びと共に、大きな責任を感じます。

最初の開催地は和歌山市のデパートです。会場に用意された感想文を読むと「八幡学園の原点を知ることが出来ました」「八幡学園には山下清以外にも絵の上手い子がいたことを初めて知りました」「沼君の絵は楽しかった」。



沼祐一 二列目
野田重博 二列目

山下清 二列目

山下清と仲間たち
撮影・渡辺実 昭和 11 年（1936）



「山下清とその仲間たちの作品展」に合わせ
出版された図録

八幡学園との関りを持って今年で63年。八幡学園の歴史の約3分の2年間を共に歩んできました。

思い起こせばいろいろな出来事がありました。

市川市ニッケコルトンプラザで開かれた山下清作品展に初代園長夫人美智子さんが観に来られ、創立当時の話を聞くことが出来ました。

八幡学園60周年記念祭では渡辺実先生の学園への熱い思いをお聞きしました。初代園長を助け、園児に農作業を教え、絵画教室では一人一人の特性を伸ばし、職員みんなで八幡学園を守った話に感動しました。

久保寺光久園長ご夫妻と箱根温泉に旅したことも楽しい思い出です。

久保寺玲園長と共に高円宮妃殿下をお迎えして八幡学園と戸川行男助教についてご案内したこともつい昨日のようです。

最後に石川謙二君について。昭和11年(1936)、浅草で浮浪生活を送っていた謙二君は方面委員に連れられて学園に送られてきました。謙二君は絵が好きで絵画教室で毎日絵を描いて過ごしました。学園に来て1年が過ぎたころ、謙二君の消息を知った兄が弟を連れ戻しに来ました。それから10日ほどたったころ、学園の門のところにうずくまっている少年を園長が見つけます。少年は謙二君でした。何をしているのか話を聞くと、「学園の方が楽しいところだから家を出てきた」と言ったそうです。謙二君にとっていかに学園が住みやすいところであったかわかります。

八幡学園はあと3年で100周年を迎えます。

私も健康に気をつけ、ぜひお祝いに参加したいと思います。

「踏むな育てよ水そそげ」素晴らしい学園標語です。

八幡学園山下清展事業委員会は令和6年(2024)8月閉会いたしました。63年間、皆さんに支えられてきましたことを心から感謝申し上げます。



放浪を終えてから12年目。
今、放浪していたらどこを歩いているのかな。——
そんなことを考えているようだ。
食事を終えて庭を眺める山下清。
福島県白河市 昭和43年(1968)

山下清との会話から

木と人間の話

夏の間 青々とした葉っぱも秋になると茶色になって 茶色になった葉っぱは冬になると枯れてみんな落ちて木は死んだようになる 落ちた葉っぱは木の肥やしになって 春になるとまた青い葉をつける 夏になるともっと青くなって木は元気になる 木はそれを何回も繰り返すんだな 人間は一回死んだら終わりだな

昭和45年(1970) 山下清 48才

【この年の翌年49才で他界】



初めて山下清に会った日
山下清が色紙に絵を描いているところ
左・山下清 右・松岡
清水市青少年会館別館
昭和 38 年（1963）10 月 11 日



子供たちの質問に答える
左・山下清 右・松岡
三重県松阪市
昭和 39 年（1964）



児童が描いた絵を見ているところ
甲府市内の小学校
昭和 40 年（1965）



岩手県中尊寺金色堂前にて
左・松岡 右・山下清
昭和 40 年（1965）

金色堂見学の思い出

金色堂というのは山の中にあって金色に輝いて見えるものと思った 近くに行ってみると家のような建物の中にあって建物の中に入らないと金色堂を見られない 僕はきらきら光って遠くから見ても綺麗だろうとおもっていた がっかりするのは僕だけじゃなく ほかの人もがっかりするのかな



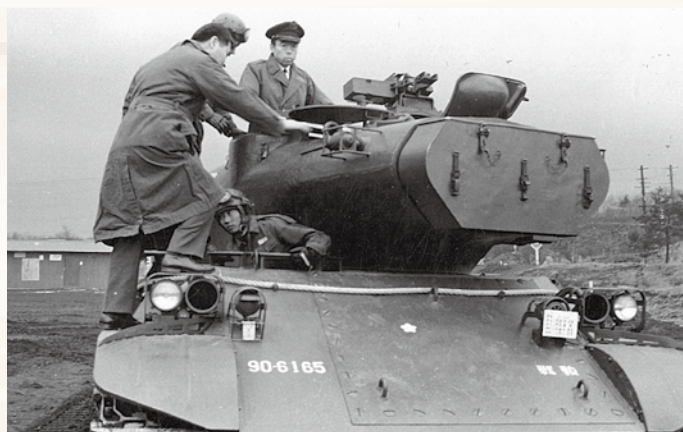
一日駐屯地司令
“陸将”にご満悦。
陸将は昔の位でいえば大将だな。

山下清と自衛隊——

山下清にとっての自衛隊訪問は、子どもが遊園地で遊ぶのと同じような感覚でいる。

遊園地にある大きな戦争玩具のようなもので、童心にかえって楽しい一日となる。

しかし、大きな玩具も戦争の武器となる自覚も持っている。



戦車試乗（訓練地内を走る）——

戦車は思ったより速く走る。

斜めの道も平気で走る、と試乗の感想。



陸将のジープを前に。
左・松岡 右・山下清



マス釣りを楽しむ

人間は魚を釣って楽しんでいるけれど釣られた魚から見れば人間をどういう風に見るかな

福島県白河市
左・松岡 右・山下清
昭和 40 年（1965）



日本一の梅園 偕楽園を訪ねる
茨城県水戸市
左・松岡 右・山下清
昭和 40 年（1965）



山下清が描いた絵をプレゼント
埼玉県所沢市内の小学校
昭和 42 年（1967）



子供たちにサイン
昭和 40 年 (1965)

「学園を出奔して放浪の旅に出た理由は」
と記者に聞かれる。

「6 年半も学園生活をしてあきたので
外の景色を見たくて」と答える山下清。



左・山下清 右・松岡
昭和 40 年 (1965)



左より式場俊三氏、松岡
久保寺銈子副園長、久保寺光久園長
市川市 ニッケコルトンプラザ
平成 3 年 (1991) 9 月 27 日



高円宮妃殿下、詢子様
戸川行男助教について説明
東京池袋西武百貨店
平成 20 年 (2008) 8 月 6 日



松岡代表による記念講演 市川市文学ミュージアム

「なぜ？ どうして？ 真実を求めた山下清」

日時—平成 27 年 (2015) 8 月 9 日 (日) 午後 2 時～

会場—市川市生涯学習センター 2 階グリーンスタジオ

◎以降、作品展開催の度に、開催地で松岡代表による

同じ演題の記念講演が実施されました。



園児たちも鑑賞
山口県防府市・アスピラート
平成 30 年 (2018)

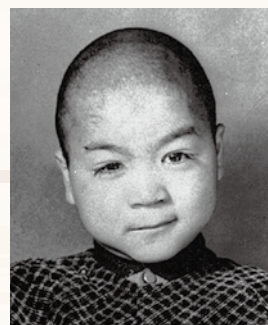


ギャラリートーク
山口県防府市・アスピラート
平成 30 年 (2018)

山下清の仲間たち 作品紹介



メリーゴーランド (クレパス) 58,6 × 77,4
昭和 13 年作 (1938)



クレパス画の異才
石川謙二

大正 15 年 (1926) ~
昭和 27 年 (1952)
享年 26 才



ひと (貼絵) 37,4 × 29,2
昭和 15 年作 (1940)



原始芸術の風格
沼 祐一

大正 14 年 (1925) ~
昭和 18 年 (1943)
享年 18 才



花と虫のいろいろ (クレパス) 58,6 × 77,4
昭和 13 年作 (1938)



幼くして絵画的天分の持ち主
野田重博

大正 14 年 (1925) ~
昭和 20 年 (1945)
享年 20 才

松岡様、ありがとうございました

63年。昭和から平成、令和へと、山下清やその仲間たちの作品展開催によって、福祉文化啓発活動に専念され、その間、八幡学園のため多大なご協力をいただきました「八幡学園」山下清展事業委員会代表、松岡一衛氏には感謝の一言しかございません。

『山下清展事業委員会は、令和6年8月閉会いたしました』と、おそらく万感の思いを込めてお書きになっておられます。八幡学園と共に歩まれた63年間の日々に対して、当法人も八幡学園を始めとする福祉事業を、法人理念の下で今後も堅実に誠実に運営していくことで少しでも恩返しができる、と思っております。

私が作品展や法人運営をを通じ松岡代表との交流を深めたのが、父の2代目の光久園長が存命中の平成の10年代頃だったかと思います。平成16年に園長に就任してからは、「山下清とその仲間たちの作品展」が開催される度にご連絡をいただき、現地会場に出向き初日セレモニーに出席、翌日は来場者対応のお手伝いをして帰園、という形でささやかな協力をしてまいりましたが、平成18年正月に千葉駅前の三越百貨店催事場で同展が開催された際、松岡代表や故鹿倉理事、故富澤理事と共に教育委員会等を後援とりつけのため訪問したり、開催日前の作品搬入と展示作業、会期中の来場者対応、閉会日の全作品の片付け搬出等々の作品展運営に関わる仕事の一端に触れ、作品展を開催運営することが如何に多大な労力と時間、周到な諸準備と気配りが必要なものであるかを実感致しました。その後、平成27年6月には学園の地元、市川市文学ミュージアムにて開催され、職員を動員してできる限り協力しましたが、この時も作品展開催前、会期中、撤収に至るまでの様々なご苦勞を知りました。毎回、各地での開催時には、松岡代表が会場借用交渉から始まり、殆どお一人で運営をとりしきっておられると思うと、ただただ頭の下がる思いが致しました。

社会福祉法人 春濤会 理事長 久保寺玲

松岡代表には、平成17年度から当法人評議員、平成23年度からは理事にご就任いただき、現在も理事として法人運営にご協力してもらっています。また、度々、学園へ寄付金や園児達の生活用品やお菓子などのお心のこもった品々も頂戴しております。改めて御礼申し上げます。

松岡代表の一番のご功績は、作品展開催を通じて『踏むな、育てよ、水そそげ』の初代園長の掲げた学園標語に凝縮されている八幡学園の理念と歩み、山下清やその仲間たちの才能を開花させた人々の紹介等を通じ、会場となった全国津々浦々の地方都市の皆様に対しての福祉と教育に関する啓発活動であったと理解しております。

山下清の名前に惹かれて来場した人達が、作品展観覧により、昭和初期、福祉という言葉すら社会に浸透していなかった時代から始まる八幡学園の歴史と創設者初代保久園長の精神を知ることができて、作品鑑賞と共に松岡代表手作りの解説文のパネルや古写真パネルによって、自然と障害児への福祉と教育の在り方が啓発される質の高い展示内容となっていました。山下清だけでなくその仲間たちの作品展示や人物紹介も、数多くの来場者に『知らなかった、素晴らしい』と感動を呼び起こしていました。

お正月に開催した千葉市三越展に来場したお孫さんを連れた女性から『今日は孫達に、心のお年玉をもらいました』というお言葉をいただいたのを昨日のここのように思い出します。

松岡様から63年もの長きに渡りいただいた学園へのお力添えに、深謝致します。八幡学園にとって、学園の理念を真に理解し、共に歩み続けて下さった松岡様と事業委員会の存在は、他の何物にも代えがたい宝物です。令和10年度に予定の学園創設100周年を、松岡様と63年の歩みを振り返りお祝いできることを願っております。

新入職員紹介

■ 新任職員インタビュー



木村圭太

なぜ春濤会に就職したのか

アルバイトをさせて頂き、大きな施設で子どもたちがのびのびと過ごしていたり、「子どもがやりたいことを自分で決める」といった姿勢で支援がされていることに、魅力を感じました。アルバイトにも職員の皆さんが支援について詳しく教えて下さり、就職後も成長していくことができると感じました。

仕事の中で頑張りたいこと

子ども達が「明日もひまわりに来たい」と思ってもらえるように、より良い支援をしていけるよう頑張りたいです！



五十嵐菜月

なぜ春濤会に就職したのか

春濤会では、子どもを第一に考え、どうすれば子どもたちが伸び伸びと暮らせるかを大切にしています。私も、このような支援を行いたいと考えたため就職しました。

仕事の中で頑張りたいこと

意思決定支援に着目し、子どもたちが自分の意見や考えを表明できる環境づくりに力を入れていきたいと考えています。



櫻井華乃葉

なぜ春濤会に就職したのか

お子さん一人ひとりの個性と向き合い、よりよい生活を送るために職員全体で取り組む姿勢や、施設見学の際に説明を受けた「(良い意味での) ゆるさ」という考えに魅力と興味を持ち、春濤会に就職しました。

仕事の中で頑張りたいこと

まずは、業務内容を覚え、基盤を定着させたいです。そして私自身、言葉足らずなことが多いと痛感しているため、職員や子ども達とのコミュニケーションを通して、スキルを磨いていきたいです。

4月1日(火)より、5名の新しい仲間を迎えました。障がいのあるお子さんの支援を志し、春濤会に入職してくれたことを歓迎します。社会人としてこれから様々な壁に直面することがあると思いますが、まずは目の前のお子さんの支援に全力で取り組んで行って欲しいと思います。どうか、今後の成長を見守っていただけますと幸いです。



横川綾乃

なぜ春濤会に就職したのか

児童の障がい支援一筋であるという点に惹かれました。大学で子どもについて学んでいたことと放課後デイサービスでのアルバイト経験の両方を活かすことが出来ると感じました。

仕事の中で頑張りたいこと

1年目は、とにかく業務や日課の流れを身体に染み込ませ、環境に慣れていきたいです。また、子どもたちと生活を通して様々な形で関わり、関係を築いていきたいです。



戸塚 遥

なぜ春濤会に就職したのか

大学3年生の頃より、アルバイトをさせて頂きました。その頃から、職員の子どもの関わり方や、子どもが満たされるような支援を魅力的に感じました。アルバイトの身でありながら、学ぶ機会を多く頂けたことも他にはないと感じ、春濤会の職員になりたいと思いました。

仕事の中で頑張りたいこと

大学で心理学を学んでいたため、子どもの気持ちを考え、行動の裏を考えることを頑張りたいです。どの子どももみんな発信の方法が違うので、ひとりひとりの方法に気付いて寄り添えるように頑張ります。



■ 事務局職員 採用紹介

2024年度内に、法人事務局に2名の職員を採用いたしました。支援現場を支える部署として、新たな頼れる存在となれることを期待しています。何卒、よろしくお願いいたします。



会計担当
吉田 拓真



労務担当
何 文曦

創作工房「アトリエ・オクト」 作品紹介

01 『キリンとチーター』

※第11回 いちかわ未来の画家コンクール佳作賞作品

作：竹内晃太（中学三年生）

技法：ミクストメディア



02 『ゲームの世界』

作：安田鈴次朗（高校一年生）

技法：ペン、クレヨン、コルクボード



03 『サファリ - 僕の好きな動物たち -』

※第11回 いちかわ未来の画家コンクール佳作賞作品

作：RYUTO（高校三年生）

技法：切り絵



春濤会 ご支援の お願い

後援会への援助金は、学園を主とした法人事業の建物設備の充実に使用いたします。

学園で暮らす子ども達により良い暮らしを提供していくためには、生活環境を整えていく努力が欠かせません。各種の設備品類の購入や整備補修の他、小舎化を推進することをめざしています。そのため、多額の資金が必要です。

また、地域在宅の子ども達のための福祉事業である「児童発達支援センター」「放課後等デイサービス」、両事業の充実のための運営費も必要です。

なにとぞ、このような実情をご理解の上、**子ども達の福祉向上のため、後援会へのご賛助ご協力のほど、お願い申し上げます。**

お振込先

振込先口座番号：千葉銀行（0134）中山支店（014）普通 3712450

口座名義：八幡学園後援会（ヤワタガクエン コウエンカイ）

代表 久保寺 玲（クボデラ アキラ）



● 年会費 一口2千円以上。特別賛助会費ご随意の額。

● 振込の他、現金書留や学園事務所に直接のご持参でも結構です。皆様のあたたかいご支援をお願いします。